



一般住宅への住宅用火災警報器の設置が義務付けられます。

- 新築住宅は平成十八年度から適用。
- 既存住宅は各市町村の条例にゆだねる。

防災・防火ビデオ・DVD

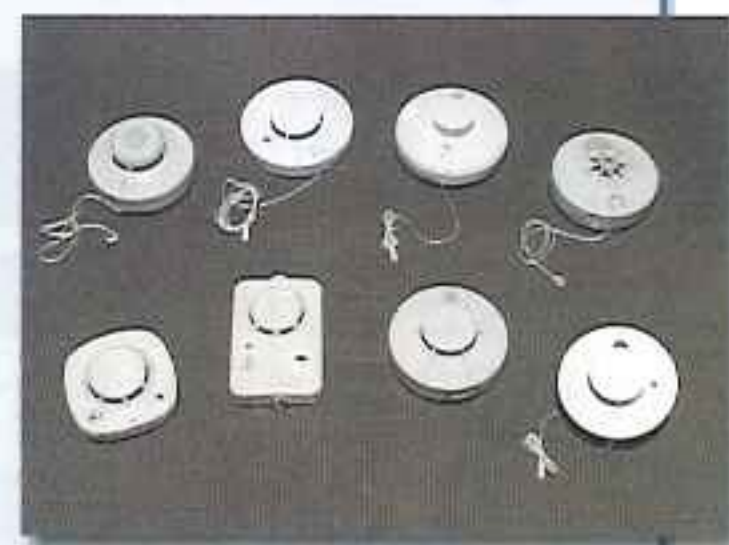
住宅用火災警報器のいろは 取付け方法と取扱い

19分 VHS/DVD



住宅用火災警報器が設置済みの民家火災の実例を取材、所轄消防署の所見と解説を交え、警報器設置の必要性を訴えます。

消防法改正の背景を火災映像や統計数字から解説。
住宅用火災警報器の種類、購入に関する簡単な説明もあります。



スタジオでは取付け指導員とともに、正しい取り付け場所を考え、取付け方法や、その取扱いについても考えていきます。

女性レポーターが住宅用火災警報器の取付けに挑みます。電池を入れ、作動テスト！
取付け後のアドバイス、「出来ました」



▶ 作品中の一言(抜粋)

1. 「もし警報器が無かったら、と思うとゾッとします」
(出火被災者)
2. 「警報器の作動が、火災の早期発見につながった」
(消防司令長)
3. 「最初に煙、続いて炎 ... 火災で最も怖いのが煙です」
(実技指導者)
4. 「警報器はどこに付けても良いわけではないのですね」
(レポーター)
5. 「取付け完了後は、作動テストをしてください」
(実技指導者)
6. 「テストをパスした警報器にだけ、合格マークが付きます」
(消防検定所)
7. 「人の注意力には限界があります。だから ...」
(菅原 教授)

企画のねらい

近年、増加傾向を示す住宅火災による死者数の約70%以上が、避難の遅れが原因と見られています。特に高齢者の死者が多いことは大変憂慮するところです。

そうした中、「消防用設備等の設置義務付け」の法制度化が図られるなど、住宅用火災警報器（以下、住警器）の必要性や認識は高まりつつありますがその普及率は、というとまだまだ、といわざるをえません。

この低普及率の原因は様々に考えられるところです。なかでも、

1. 住宅用火災警報器が知られていない
2. 購入、入手の方法が分からない
3. 効果；どのような方法、音で報せてくれるのか？
4. 設置；どこに、どうやって取り付けるの？
5. 保守；設置後はそのままで良いの

この5つが大きな原因として考えられます。

そこで、この5点に焦点を当て、一つ一つ分かりやすく解説し問題点を解きほぐし、住警器の設置の拡大を図ると共に、住宅火災による死亡者の減少を図ることを「企画のねらい」とします。

作品の流れ

1. 住宅用火災警報器設置済みの民家火災！ 警報音に気づいた住人の談話、所轄消防署の所見は住宅用火災警報器の有用性を十分に感じさせます。
2. 住宅用火災警報器の設置義務化の社会的背景を火災映像や統計数字で解説。警報器の種類や簡単な構造にも触れます。
3. 取付け指導員と女性レポーターによる警報器取付けや取扱いを、CGやVTRなどを交えて解りやすく解説。
4. 日本消防検定協会における警報器の検定基準などをレポート。東京理科大学教授・菅原先生の解説で締めくくります。



制作協力；（社）日本火災警報機工業会 / 日本消防検定協会 / 埼玉県越谷市消防本部
東京消防庁光が丘消防署 / 東京消防庁（資料提供）

スタッフ；篠原 修（プロデューサー） / 永沼 しん（構成・演出） / 原島真一（カメラ）

（映）有限会社 博映商事

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp> 【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp